

リンドウ「岡山RND4号」は2株仕立てにより 定植2年目の収穫本数が増加します



図1 セルトレイ育苗の1株苗（左）と2株苗（右）

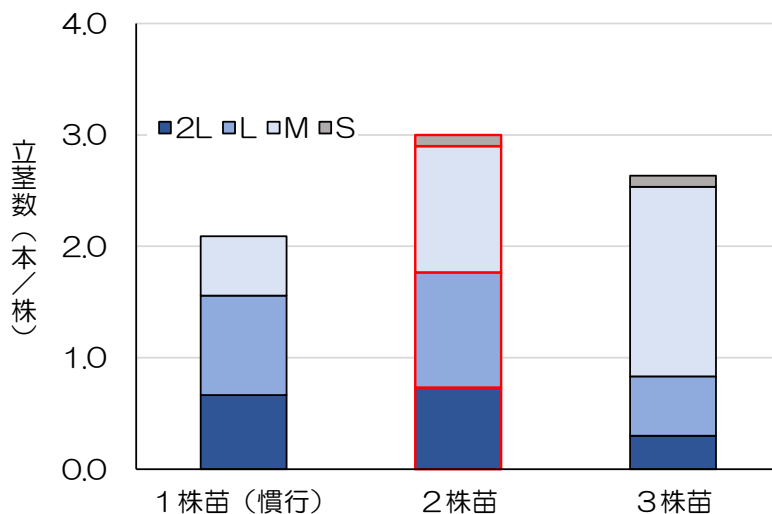


図2 育苗時の苗本数別の立茎数（定植2年目）

開発のねらい

一般的なリンドウの育苗では、セルトレイ当たりの苗数を1株に仕立てます。しかし、極早生品種の「岡山RND4号」では、1株仕立ての初収穫年（定植2年目）の収量が少ないことが問題となっています。そこで、栃木県開発の2株仕立ての育苗方法による増収効果を検討しました。

新技術の概要

- 2株仕立てでは、初収穫年に出荷規格を満たす花茎が1株仕立ての1.4倍程度多くなります。
- 切り花品質は1株仕立てと同等で、収穫初年度の所得向上につながります。
- 3株仕立てにすると立茎数は増加しますが、切り花品質は低下します。

活用場面

「岡山RND4号」栽培地域で、初収穫時の切り花本数が確保でき、所得向上が期待できます。